

戦後日本が置き忘れた 『心の財』真心』

皆さんお元気ですか？今月は7月ということで、いよいよ夏の到来を迎えるわけです。日本が誇る、自然の財産である「四季」を、体いっぱいと感じながら、元気に、そして感謝しながら今月も頑張っていきたいと思います。

さて、このハンド仏句でも再三お話しして参りましたし、日蓮大聖人も仰っておられますね。『蔵の財（たから）より身の財（たから）より心の財（たから）第一なり』と…。

「蔵の財」や「身の財」というものは、生活していく上で勿論欠かす事はできません。そしてこれらは目に見える物という事が言えます。また「心の財」というのは、目に見えない財と言えるでしょう。では、この心の財とは一体何でしょうか？それは「真心」と言えるでしょう。つまり、目に見えない物の中にこそ、本当に大切な物が隠されています。「蔵の財」は私達が生きていく上で、間

違いなく必要な物ですが、あくまで、私達が生きていくための付属品の様なものです。そのくらいに考えて頂ければ宜しいでしょう。また、「身の財」というのは、健康な体をはじめ、ひいては身分・地位・名誉ということであり、蔵の宝という物の財産よりも、当然こちらの体の健康の方が大切であるのはいうまでもありません。しかし「心の財」に比べれば、劣ってしまいます。

私達は、この世の中を生きていく時に、何か物事の一面だけに囚らわれている場合が多い様な気がします。しかし本当は、もっと大きな視野で、周囲の動向を見つめねばなりません。そうする事で、はじめて「自分は生かされている」という事に気がつかせて頂けるのです。皆さんも必ず経験があると思います。『苦しみの経験こそ、自分が成長するための種』になっっているはずですよ。辛い、悔しい、悲しい、苦しいからこそ、道が開けた時の『有り難み』が分かるわけです。そうして私達は、心の財を養っていくのです。「心の財」とは、いつも、いつも自分は、周囲の人間や、自然などを含めた身の回りの環境全てから、愛情を注いでもらっているのだという、この上ない『有り難み』に気

がつくことができる【心の土台】の事であります。この心の土台の密度が高いか、低いのか。深いのか、浅いかによって、私達の行いが深いものにもなり、浅いものにもなってしまうのです。目先の事物に囚われてはいけません。心の中で生成された思考が、私達の行いに変化していきます。その行動で得た物こそが、「蔵の財」になるのです。即ち『心の財』こそ、何よりの財ということになるのです。

真心を込めて生きる時、その人その人の人生において、はじめて「生かされている事」に気づかせて頂けるのだ、ということでもあります。

逆に、真心を込めて生きる事ができなければ『心の財』を養う事ができず、自分が生かされている幸せを感じる事ができず、また普通の幸せに気づく事も当然できません。その人はどうなると思いますか？『心の財』を養う事を知らないのですから、『蔵の財』をはじめ『身の財』といった、目に見える財が全てだと、地位や名譽ばかりを追い求める人生になる事でしょう。目に見える財を追い求めたところで、キリがありません。「もっと、もっと。まだ、まだ…」と。どこまでいっても先が見

えない事くらい、当たり前であり、ちよつと考えれば分かる事であります。

そうは言っても、「言つは易く行つは難し」でありまして、生活に追われる毎日ならば、本当のところは、なかなか気づかないのが普通かもしれません。しかしだからこそ、敢えて自分の心と対話をする事が大事なのだと思います。

先月秋葉原で起きた、無差別殺傷という忌まわしい事件での犯人（加藤智大容疑者）は、まさに『心の財』を持ち合わせる事ができなかった人間の象徴でした。

この無差別殺傷事件で、七名の尊い命が奪われ、十名の犠牲者を出しました。加藤智大という人間に『心の財』が養われていなかった事が全ての原因だと思えます。残された犠牲者のご遺族、また犠牲になつた皆さんの無念さを考えれば、大変遺憾に思います。犠牲者の御魂のご冥福を祈り、心より合掌致します。

南無妙法蓮華經（三唱）…。
私達は、こういう事件を目の当たりにして、他人事ではなく、自分自身のように真剣に考えなければ

いけないのではないのでしょうか？まだ見ぬ第2、第3の加藤容疑者を生まないためにも、1人1人の心の財を養うためにも、生かされている事に気がつけるためにも、想像力を養い、そして心を養わねばなりません。加藤容疑者は「できるだけ多くの人を殺したかった」と供述。また、親や職場などについて「社会が悪い。周囲が悪い」と不平・不満を並べ、特に親に対し「好き嫌いとか憎しみという感情を超越した存在だ」と振り返った上で「他人だ」と明言した。両親は教育熱心で、「息子を自慢したいから、完璧に仕上げた。作文は親の検閲が入っていた」「中学生のころには親の力が足りなくなり、捨てられた」との内容が携帯電話に記されていた。犯人は嚴重に罰せられるのは当たり前ですが、犯人を育て上げた両親の教育にも憤りを感じます。子供はオモチャではありません。この両親にも『心の財』が無かったのでしょうかね。

もうこれ以上、第2、第3の加藤智大を出さないためにも、『心の財』

をシツカリと築きあげていかねばなりません。これは大人も子供も関係なく、人間として、自分は生かされている事に気づけるように、そして感謝できる人間を目指しましょう。自分の心と1度ちゃんと対話してみよう。『何か原因を外に求めている間は、問題の解決はできません』。

合掌 副住職 谷川寛敬